

埋もれていた唄を 地域の郷土唄に

日高町三方地区では、地域住民によって民謡を見直し、普及させる取り組みが行われてきました。今日の復活までに、日々活動を続けてこられた方を紹介します。

谷垣 忠利 さん(84歳)日高町篠垣在住



三方小唄について語る谷垣さん。歴史に詳しく、自宅にはさまざまな歴史書や著書が並ぶ。医師として、長年、地域医療の推進に貢献されました

三方の魅力が盛りだくさんの「三方小唄」

三方小唄保存会は、日高町三方地区に約40年間埋もれたままの「三方小唄」を復活させ、次代に受け継いでいこうと結成された団体です。地域の老人会を中心に、現在、会員数は22人です。

同保存会の会長を務める谷垣さんは、「三方小唄の魅力はこの唄を聞けば三方地区の情景が頭に浮かぶことです。三方16集落の自然美や情景が盛り込まれています」と話します。

三方小唄の詞は、一番から十番まであります。ボタンで知られる隆国寺、観音寺の仁王門などの名所のほか、夏ま

つり、秋の紅葉、さらに地域を流れる阿瀬川のマス、アユなどの特徴が巧みに盛り込まれています。

三方小唄
招く金山不動の滝も 暮れて
キャンブに灯がともる ヨイト
ヨイトサノ 金谷日高の
奥座敷 ソーレヨイヨイ三方
よいとこヨイトナーソレヨイ
ヨイトヨイ
(中略)
山にろう石若鳥や 里に広
井佐田知見米どころ ヨイト
ヨイトサノ かわす笑顔に幸
がわく ソーレヨイヨイ三方
よいとこヨイトナーソレヨイ
ヨイト

発祥から
保存会の発足まで

昭和41年、谷垣さんは、各地の学校や家庭でピアノを教

えながら全国を旅している田中幸夫先生に同地区で出会いました。

谷垣さんは、自分の車で地区内を案内したところ、田中さんは、三方地区の自然美や歴史に感激して、「三方小唄」を作り、この地に残しました。しかし、その後、この唄は眠ったままの状態となっていました。

平成12年、谷垣さんは三方小唄が忘れられず、音楽指導経験をもつ、三方小学校教頭(当時)を務める戸田和代さんに、「この唄を何とか復活させてほしい」と思いを伝えました。

戸田さんは早速残っていた楽譜をもとに、音楽事務所に依頼して、曲を一新し、さらに踊りの振り付けも手がけ、子どもから高齢者までみんなが踊りやすいように仕上げました。

その後、戸田さんは地域の老人会に呼びかけ、平成14年に三方小唄保存会を発足することになりました。

保存会の活動は
地域の元気の源

結成された保存会は、1か月に1度、三方地区公民館に

集まって練習を続けています。平成15年には、文化協会に登録され、地域の福祉まつりや文化祭の場などに積極的に出演し、小唄の普及に努めています。

また、この小唄は、三方小学校3年生のふるさと学習にも採り入れられ、毎年、児童たちはこの小唄の学習を通じて、三方の魅力を探りながら郷土について学習しています。

谷垣さんは、「こうして、新しい曲ができ、また、三方地域へ向けて発信できることを、メンバー全員で喜んでいきます。長い年月を越えて復活した三方小唄を、また眠らせることのないよう、この地にしっかりと根付くように活動したいです。この唄が次代に受け継がれ、郷土発展の一助になることを願っています」と三方小唄復活の喜びを話していました。



三方小唄を披露する保存会の皆さん

学校探検 5

自分たちでつくる
思い出の1ページ

福住小学校(出石)

案内者 岩崎 絢^{あや}香^かさん



福住小学校は、国道426号沿いの出石町南西部に位置し、全校児童数は132人です。校区内の細見地区には市の医療・福祉施設が集中しています。

この学校に通う、児童会長の岩崎絢香さん(6年生)は、陸上クラブに所属し、放課後には100メートル走の練習をしています。

また、3年生から始めたそろばんは現在初段の腕前。将来はそろばんの先生になりたいという夢を持つ岩崎さんに



児童たちがのびのびと学習する福住小学校

福住小学校を紹介してもらいました。

私の学校で一番楽しい行事は、9月に行われる運動会です。

福住小学校では、競技に出場する児童を応援する応援団があり、私は、応援団長を務めました。

事前にみんなで掛け声や動きを考え、当日は、競技に出場する合間を縫って団員みんな一致団結し、競技している友達を応援しました。

事前準備や放課後の練習など、とても忙しかったですが、運動会を通して友達との連帯感が一段と強くなり、思い出に残る行事となりました。

また、福住小学校では、1年を通して、レクリエーション活動を多く行います。春の1年生を迎える会、夏の七夕集会などです。

なかでも私が一番好きな行

事は、12月のクリスマス集会です。9日に行われたクリスマス集会では、宝探しとサンタのキャンドルサービスをしました。

校舎に隠された82個の宝を全校児童縦割り19班の班ごとで探し出します。一番多く宝を探し出した班には、お菓子などの景品がもらえます。

また、サンタの衣装を着た児童が現れ、キャンドルサービスをします。明かりで浮かび上がったクリスマスツリーを前にして、最後にサンタから手づくりクッキーがプレゼントされました。



サンタは児童の人気者。みんなでクリスマスを楽しんだ

福住小学校では、学校行事やレクリエーション活動を通して、集団活動の中で、それぞれの責任と役割を意識できるような取り組みを行っています。

笑顔の輪

太極拳

『朝練クラブ』代表 白岩 範道^{のりち}さん

城崎町で太極拳をする「朝練クラブ」は、主に城崎町湯島地区に在住の有志が集まり、平成15年から活動を行っています。現在クラブ員数は25人です。

白岩範道さんの指導のもと、平日の朝6時に集まり、4月から10月までは菊屋島運動公園で、11月はさとの湯イベント広場で練習に励んでいます。

太極拳は、健康体操と捉えられがちですが、攻撃と防御が形に採り入れてあり、体の大小に関わらず優れた護身術となります。また、中国の皇帝も身につけていたという歴史と伝統ある武術です。

白岩さんは、太極拳にとつて大切なことは、頭をまっすぐに支え、自然な呼吸や腰を中心とした下半身の安定感と粘りです」と話します。

安定した足腰の動きと、上半身の流れるような円運動が精神を安定させ、ストレス解消や心身の健康にもつながります。

広く一般的に知られる太極

拳は、「簡化二十四式太極拳」といわれるもので、太極拳の主要な24種類の動作で構成されています。また、覚えやすい入門編と初級編があります。現在、太極拳は、メンバーの皆さんにとって生活リズムに欠かせなくなっています。白岩さんは、「朝練クラブは、地域の方とふれあうよい機会になっていきます。太極拳を一人でも多くの方に始めていただき、健康で活動的な人が増え、「元気なまち 城崎」に貢献したいです」と笑顔で話していました。



吐く息も白い早朝、太極拳をする会員の皆さん